

日吉台地下壕保存の会

会報

第19号

発行 日吉台地下壕保存の会

編集 事務局

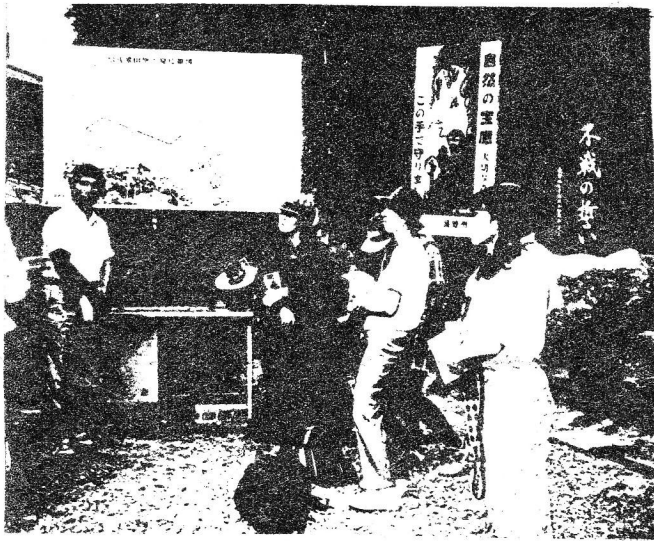
223 横浜市港北区下田町3-15-27

寺田方 TEL.045-562-1282

(年会費)一口千円で、一口以上

郵便振込(口座番号)横浜2-62997

(加入者名)日吉台地下壕保存の会



松代大本営(象山)地下壕の入口前で話を聞く会員

目次

○ソフィの選択	1
○第3回幹事会報告	2
○第4回幹事会報告	2
○第5回幹事会報告	3
○第1回イベント打ち合せ会	3
○松代大本営 地下壕見学会感想文	4
○編集後記	4

ソフィの選択

副会長 東郷秀光

日吉の地下号を私はまだ見ていない。一枚の版画がいま私の手元にある。桑の切株との原が描かれており、その全体の色調は黄で、わずかに空が見えるものだ。この風景には何の変哲もなさそうだが、やはり何か潜んでいる。足尾銅毒事件とその反対の闘いを知るとき、全く別物に見えてくるからだ。

そういえば『ソフィの選択』でも、青年ステングが過去を持つソフィに心を寄せることから、彼女のアウシュビッツ体験を知り、やがてナチスの暴虐を知るにいたるのだった。

一般論としては戦争に賛成する人はだれもない。状況が一見複雑なため、「現実論」が優位を占めるのだ。事柄に関心を深め、正確に理解することがすべての出発点だ。

やはり日吉の地下壕には入ってみよう。

第三回松竹市争△△却報出口

日時 七月一六日午後五時半

場所 藤山記念館大会議室

報告事項

事務局長より

一、会員数 四九八名

(六月一六日現在)

二、六月五日：県委託「神奈川と朝鮮との関係史委員会」

三、六月二八日：大学生協東京地連主催「八王子浅川の地下壕」見学会。二一名参加した。

四、七月一二日：日吉にんげんセミナー「日吉台地下壕Ⅱ 足元に眠る戦争の証人」

で、地下壕見学会を急ぎよ変更し、日吉台地下壕についてビデオを使って講演を開催した。五五名参加。

五、七月二一日：聞き取り調査予定。

六、七月二六～二七日：地下壕関係団体全国集会。

議事

一、今後の具体的な活動計画

1 七月二一日(火)日吉駅

改札口前に一〇時に集合。

2 一二月八日前後にどこか

(川崎市平和館)で、他の

団体(登戸研究所を調査している団体など)との共催

で「平和のための戦争展」を開催する。

二、地下壕関連の第三回全国

交流集会について

三、パンフレットの発行

資料集をもとに、みんな

夏休み中に分担してやる。

大きさ：A五

頁数：二四頁

部数：二〇〇〇

定価：四〇〇円

発行日：一二月八日

入稿：一二月末

原稿不切：九月三〇日

内容：

1 地下壕が掘られた時代背景

景(年表を入れる)

2 地下壕の分布と概要

(航空写真を入れる)

3 なぜ海軍が日吉にきたか。

4 地下壕をどの様に掘ったか。

5 海軍はここで何をしていたか。

6 日吉台地下壕と空襲

7 米軍進駐と戦後の日吉

8 地下壕保存の意義と方法

(市長と県知事への要請文を載せる)

第四回松竹市争△△却報出口

日時 八月一四日一〇時

場所 日吉地区センター

報告事項

事務局長より

一、会員数 四九九名

(八月一三日現在)

二、七月二一日：もと鶴見の

さかえ地区の河川敷にいて

さかえ団地に移ってこれ

た人々に聞き取り調査をし

た。

三、七月二七日：区政推進課

に行き、課員に会報と生協

ニュースを渡し、地下壕の

保存について話合った。

ついで市役所の市民局広報

課長に会って、地下壕の保

存について話し、保存の

要望をしてきた。

四、八月二日：村田容疑者の

検索に協力して、県警の機

動隊を地下壕に案内した。

五、八月四日：寺田、茂呂、

田中(県高校社会科教科研)

の三人で、地下壕出入口の

地主の方に地下壕見学会の

再開のお願いに行った。快

く承知して下さった。

六、八月七～八日：松代の地

下壕の見学会に一五名参加。

七、八月一日：日吉本町の

小野宅、加藤宅、高田の宮

田宅(元連合艦隊司令部付

暗号隊員)に聞き取り調査

をした。

八、八月一二日：区政推進課

長に会い、地下壕保存につ

いて話し、保存の要請を

すると共に、市の方に働き

かけて頂くようお願いを

してきた。また、一度区長

や区や市役所の関係部署の

方に、地下壕の見学に来て

頂くように要望した。これ

に対し横浜市では二〇一〇

年を目標年次とした新総合

計画の策定に取り組んでお

り、その中に取り入れられる

様にする必要があるので

はないか。また、機会を見て見学したいとのことであった。

九、八月一三日：日吉本町の川田宅に聞き取り調査をした。

議事

一、パンフレットの発行

「内容と分担」

○目次(1P)

1 地下壕が掘られた時代背景

(2P) 加賀谷

2 地下壕の分布と概要

(6P) 寺田

3 なぜ海軍が日吉にきたか

(2P) 林

4 地下壕をどの様に掘ったか。

(3P) 小園

5 海軍はここで何をしていたか。

(3P) 中沢

6 日吉台地下壕と空襲

(3P) 亀岡

7 米軍進駐と戦後の日吉

(2P) 谷藤

8 地下壕保存の意義と方法

(2P) 白鶴

○レイアウト・字数

加賀谷と寺田で考える。
二、イベント計画について

平和のための戦争展(仮称)を保存の会と登戸研究所の調査をしているグループなどとの共催で、川崎市平和館で行う。
日時：二月八日前後
実行委員長：亀岡

第五回松軒車争△△部退出日時 九月九日午後五時半

場所 日吉地区センター

報告事項

事務局長より

一、会員数〇五〇二名

(九月八日現在)

二、八月一八日：盲学校の先生の研修会で、地下壕を見学。約一九名参加。

三、八月二〇～二六日：県の「神奈川と朝鮮との関係史」調査委員会による韓国調査。

道庁・市庁・役場・図書館の資料調べ、強制連行者家族の聞き取りなどを行う。

韓国のテレビ・新聞等のニュースで放映・掲載された。

四、八月三〇日：日吉に住んでいらっしやる鄭さんに聞き取りをした。

五、九月四日：元連合艦隊司令部通信隊の布川氏と会い、元通信隊員の会の地下壕見学会の打ち合せをした。
一〇月三日に見学予定。

六、九月五日：神奈川県高等学校教科研究会社会科部会の見学会を、部会の係りの先生方と打ち合せをした。

一二月三日に見学予定。

議事

一、パンフレットの発行

(内容) 中学生以上を対象として、です・ます調で書く。

カット・イラスト：岡上

(字数) 一頁二段、一段は

二三字×一八行〇四一四字

二、イベント計画について

○平和のための戦争展(仮称)
*日時：二月一二日(土)

〇三〇日(日)、

九時～一七時

*法政二高の渡辺先生との

打ち合せ：九月一〇日

(木) 午後五時半、

日吉地区センター
三、見学会
日吉台地下壕の見学会を近いうちに行う。

第一回イベント
打△ロセ△△
日時：九月一〇日(木)
午後五時半～八時

場所：日吉地区センター
参加者：日吉台地下壕関係者
登戸研究所関係者

内容： 司会：寺田

一、自己紹介

二、登戸研究所の紹介〇〇渡辺

日吉台地下壕の紹介〇〇寺田

三、イベントの打ち合せ

*日時：二月一二日(土)

〇三〇日(日) 九時～一七時

*場所：川崎市平和館

*主催：平和のための戦争展

実行委員会

*委員会代表：渡辺、寺田

*イベントのタイトル：

「私の町から戦争が見える」

…登戸研究所・日吉台

地下壕の謎を追う…

*実行委員長：亀岡(日吉台)

*会計：白鶴（日吉台）

*呼びかけ団体・呼びかけ人の募集

次回の会合までに、呼びかけ団体または呼びかけ人になって頂く団体または人を集める。

*イベントの内容

1 ビデオの上映

2 映画の上映

3 講演

4 シンポジウム

5 展示

6 出店

*イベントの宣伝を兼ねて

一 一月頃、登戸研究所と日吉台地下壕の見学会を行う。

松代 大本営

地下壕 見学会

感想 文

吉崎尚子

まぼろしの大本営松代の見学をおえ、色々な思いをかかえながら無事に帰ってきました。観光気分で行った自分を恥ながら……

思えばふとこんな会話が突

然耳に飛び込んできたのが、一〇年前のあるスナック内でのことでした。となりの学生たち数人のグループが楽しげにやっております、そのなにげない会話のやりとり、私の耳はくぎづけとなってしまいました。

「おい！日吉の町は地下壕の上にあるんだってさ！中は迷路になっていて入っていった人が出れなくなつて白骨になつていんだって、おまえこの話知つてつかよ！」

学生たちはおもしろがつてみんな口々に「その話は聞いたことあるけど大学のどこに出入口があるか見たことないなアー！」「オレも話だけは聞いたことある……うわさの段階でこの話は終わつてしまいました。」

日吉へ越してきて聞かない私の関心はこの話に引きよせられてしまいました。

「何のための地下壕なんだろう？！なぜうわさだけで本当のことがわからないのだから……」と数日間はそのこととで頭がいっぱいだったことを思い出します。一年前の新聞で思わず「あッ！このことだったんだ」と日吉台地下壕の記事をむさぼり読み、指定された日に会社を早退して出席と思つたのが手違い記事で集まった人は帰りかけていました。私は残っている数人の人たちに近づき「保存の会」に入会することが出来ました。そして、この松代の地へと、学生たちのなにげない会話から、このような見学会に参加できるとは、戦後生まれの私にとつて松代は厳粛な気持ちにさせられた貴重な大遺跡でした。

しようか！ 本当にお疲れさまでした。

垣根 佳未 後記

◆ 会報を出すのが遅くなりました。夏休みは調査活動その他で、あつという間に終わつてしまいました。

◆ この秋も行事が一杯で忙しくなりそうです。地下壕のパンフレットの発行も軌道に乗り、一二月には出版できるかと思えます。

◆ イベント計画は共催の登戸研究所関係の方も我々幹事もやる気十分で準備を進めていますので、会員の皆さんの温かい御支援をお願いします。

